


Authoring Studio II

VPAS自動化ツール/PLPプロジェクト起動ランチャー

[TgiPlpAutoLauncher.exe]

【 操作説明書 】

— Version 1.00 —

2025年1月



テキスト・アンド・グラフィクス株式会社

目次

1. 概要	1
1.1 動作イメージ	1
1.2 製品モジュール構成	2
2. 監視定義ファイル	3
2.1 定義仕様	3
2.2 定義サンプル	4
3. 操作方法	6
3.1 プリントマネージャ設定	6
3.2 PLPプロジェクト設定内容の確認	7
3.3 起動および終了方法	8
3.4 画面表示およびログ出力	9
4. プロセス終了値および表示メッセージ説明	12

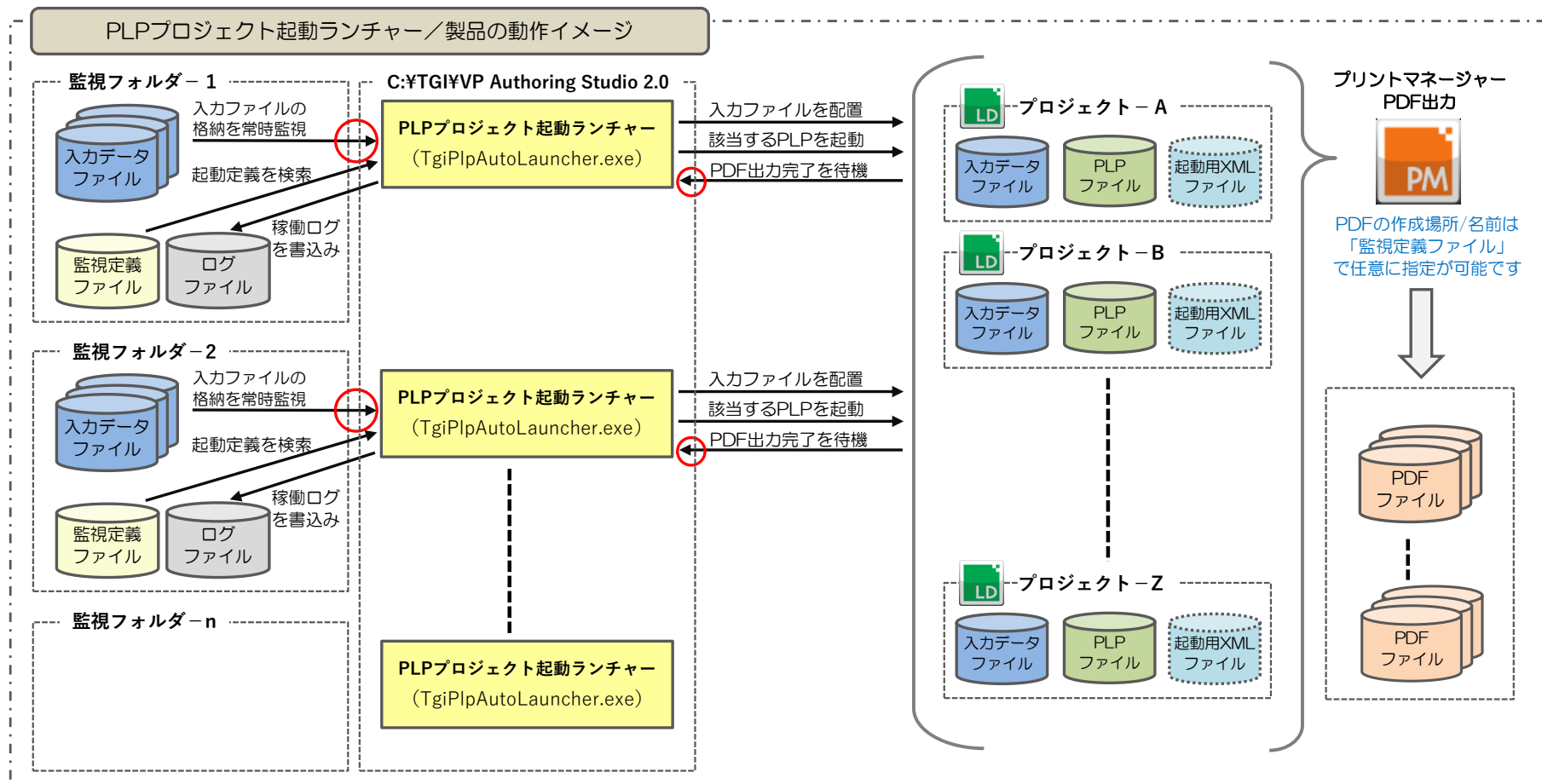
1. 概要

本製品は「VP Authoring Studio II」（以下、VPAS）のレイアウトデザイナーで作成されたプロジェクトファイル（以下、PLPプロジェクト）を起動定義に沿って自動起動させるタスクランチャーです。指定された検索条件で入力データファイルを常時監視して該当ファイルを検出したら定義されている内容に沿ってPLPファイルを自動実行します。定義されるファイル名に対して、特定書式の埋め込み（日付や時刻など）や入力データファイルの特定位置のデータを判定して条件分岐も行えます。また本製品は複数の異なる監視フォルダに対して同時に監視を実行して並列処理を行うことが可能です。

1.1 動作イメージ

本製品はVPASの「基本セット」がインストールされているパソコンでのみ動作します。また本製品で提供される製品モジュールファイルはライセンスフリーであり「基本セット」がインストールされているパソコンであれば製品モジュールファイルをVPASインストールフォルダへコピーして使用できます。

以下に、各製品の動作イメージを示します。



1. 2 製品モジュール構成

(1) モジュール一覧

本製品に含まれるモジュールは以下となります。

モジュール名	説明
TgiPlpAutoLauncher.exe	PLPプロジェクト起動ランチャーの本体モジュール
TgiLayoutDesignerExec.exe	レイアウトデザイナー自動起動用のコマンドモジュール
TgiCommandUtilLib.dll	VPAS自動化ツールの共通ライブラリモジュール

(2) モジュール配置場所

本製品のモジュールはVPASがインストールされたフォルダに配置します。
既定のインストールでは、VPASのインストールフォルダは以下となります。

VPASインストールフォルダ	C:\TGI\VP Authoring Studio 2.0
----------------	--------------------------------

(3) PLP起動コマンド用XMLファイル

本製品の動作には、PLPプロジェクト単位で事前に作成された「PLP起動コマンド用XMLファイル」が必要です。
サンプルイメージを以下に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<print>
  <selection>
    <layout name="LAYOUT1">
      <page name="PAGE1"/>
      <out1-pattern name="関連付け1">
        <out2-pattern name="動作設定1"/>
      </out1-pattern>
    </layout>
  </selection>
  <mount printFlg="false"/>
  <input>
    <target name="入力ファイル1" path=""/>
  </input>
  <output>
    <target type="PDF" folder="" name=""/>
    <options makeVMF="false"/>
  </output>
  <options>
    <split select="none" type="none"/>
  </options>
</print>
```

※このXMLファイルの詳細は、別紙「PLP起動コマンド用XMLファイル仕様」を参照してください。

2. 監視定義ファイル

本製品で使用する「監視定義ファイル」について説明します。このファイルは、本製品での入力データファイル監視および配置された入力データファイルに紐づくPLPプロジェクト、出力PDFファイルなどが定義されたファイルです。この定義ファイルは監視するフォルダに必ず存在する必要があります。

2. 1 定義仕様

(1) ファイル形式

「監視定義ファイル」は以下の形式で作成します。作成にはメモ帳などのテキストエディタを使用してください。

ファイル種別	テキストファイル
文字コード	「シフトJIS」
行終端文字	改行コード (CR/LF)

(2) 定義形式

1つの監視定義を以下の記述形式で定義します。但し、**改行のみ行、スペースのみ行、先頭に“#”文字がある行は定義情報として見なしません。**

行位置	説明	記述例
1行目	入力データファイル検索ワイルドカード、およびオプション指定	<A*_001.csv CheckTime=5 Order=Date Condition Encode:utf-16,Column:1,Line:1,Value:"A001">
2行目	検出した入力データファイルの移動先フォルダ名	MOVE_FOLDER=C:%TGIProject%Sample_A%入力ファイル%{yyyyMMdd}
3行目	起動するPLPプロジェクトファイル名	PLP_FILE=C:%TGIProject%Sample_A%Sample_A.plp
4行目	出力するPDFファイル名	PDF_FILE=C:%TGIProject%Sample_A%PDF%{yyyyMMdd}%{INPUT_NAME}_{HHmmss}.pdf Warning=Use

※全ての定義は必須指定です

※1行目の定義は固定位置、2～4行目の定義は順不同です。

(3) 定義情報の記述仕様

① 1行目：入力データファイル検索ワイルドカード、およびオプション指定

- 開始文字="<"、終了文字=">"で記述します。
- 先頭に記述する項目は「入力データファイル検索ワイルドカード」です。"*"のみの記述は全てとなります。
- オプション指定は「入力データファイル検索ワイルドカード」の後に"|"文字で区切って記述します。

「オプション」には以下の項目が指定できます。

オプション名	説明	デフォルト値	記述内容
Order	検索結果が複数ファイルの場合の処理順	Order=Name	Name:ファイル名順 Date:ファイル更新日時順
Sort	検索結果が複数ファイルの場合の並び替え順	Sort=Asc	Asc:昇順 Desc:降順 ※Orderで指定した並びに適用されます
CheckTime	入力データファイルの書き込み完了待ち検出時間(秒数)	CheckTime=3	1～999(秒)の範囲で指定
CheckLimitTime	入力データファイルの書き込み完了待ち最大時間(秒数)	CheckLimitTime=60	1～999(秒)の範囲で指定
Comment	定義のコメント情報	"" (空文字)	定義の内容等を記載。任意の文字列 ※画面・ログ出力時に表示できます
Condition	入力データファイルの特定フィールド値の条件判定指定	※指定なし	「● Condition オプション記述」を参照

● Condition オプション記述

1行目の「Condition」オプションには以下の属性が指定できます。

記述例) Condition Encode:utf-16,Separator:"#",Column:1,Line:1,StartValue:"A001",\$AND\$,Column:2,Line:1,Value:"A"

属性名	説明	デフォルト	記述内容
Separator	入力データファイル区切り文字	Separator:","	","=カンマ "#t"=タブ " "=半角スペース、その他任意の1文字 ※""で括る
Encode	入力データファイルの文字コード	Encode:shift_jis	shift_jis :シフトJIS utf-16 :UNICODE utf-8: utf-8 ※その他規定の文字列
Column	入力データファイルからデータを読み込むコラム位置	※必須指定	コラム位置を1~nで指定
Line	入力データファイルからデータを読み込む行位置	※必須指定	行位置を1~nで指定
Value	入力データファイルの値と【完全一致】で比較する定数値	※必須指定	""で括って任意の文字列を指定
StartValue	入力データファイルの値と【前方一致】で比較する定数値	同上	同上
EndValue	入力データファイルの値と【後方一致】で比較する定数値	同上	同上
ValueOf	入力データファイルの値と【部分一致】で比較する定数値	同上	同上
\$AND\$ または \$OR\$	Column・Line・*Value* の条件を複合する場合に指定	なし	\$AND\$=条件が何れも成立で有効 \$OR\$=条件の何れかが成立で有効

※Separator・EncodeはConditionの直後に指定します。順不同です。

※Value | StartValue | EndValue | ValueOf は何れか1つを指定できます。Column・Line・*Value*の3項目セットは2つの複合条件まで定義できます

※各属性の指定はカンマで区切ります。

※属性値は"."で指定します。

②2行目：検出した入力データファイルの移動先フォルダ名

- 検出した入力データファイルの移動先フォルダ名を指定します。
- 指定したフォルダが存在しない場合は自動的に作成されます。

※検出した入力データファイルは一旦ここで指定されたフォルダに複製されてPDF出力が正常終了した時点で監視フォルダから削除されます。但しPDF出力が完了するまでに何らかのエラーが発生した場合は監視フォルダへそのまま残されます。

フォルダ名には「●フォルダ名・ファイル名への埋め込み書式」で記載されている書式が指定できます。

記述例) MOVE_FOLDER=C:%TGI%Project%Sample_B%(PLP_NAME)%(yyyyMMdd)

③3行目：起動するPLPプロジェクトファイル名

- 起動するPLPプロジェクトファイル名を指定します。

ファイル名には「●フォルダ名・ファイル名への埋め込み書式」で記載されている書式が指定できます。

記述例) PLP_FILE=C:%TGI%Project%Sample_B%Sample_B.plp

④4行目：出力するPDFファイル名

- 出力するPDFファイル名を指定します。
- 指定したフォルダが存在しない場合は自動的に作成されます。

ファイル名には「●フォルダ名・ファイル名への埋め込み書式」で記載されている書式が指定できます。

記述例) PDF_FILE=C:%TGI%Project%Sample_A%PDF%(yyyyMMdd)%(INPUT_NAME).pdf

※PDF出力時にプリントマネージャで[異常]/[警告]が発生した場合の出力PDFファイルの後処理を以下のパラメータで指定できます。

パラメータ名	説明	デフォルト	記述内容
Error	プリントマネージャで[異常]が発生した場合の後処理	出力PDFファイルを削除	Use : 出力PDFファイルはそのまま残す
Warning	プリントマネージャで[警告]が発生した場合の後処理	出力PDFファイルを削除	Use : 出力PDFファイルはそのまま残す

記述例) PDF_FILE=C:%TGI%Project%Sample_A%PDF%(yyyyMMdd)%(INPUT_NAME).pdf|Warning=Use

●フォルダ名・ファイル名への埋め込み書式

2行目から3行目のフォルダ名、ファイル名指定には以下の埋め込み書式が指定できます。

埋め込み書式	説明	置換内容
{PLP_NAME}	PLPプロジェクトファイル名（※拡張子を除く）	PLP_FILE=… で指定されているPLPプロジェクトファイル名で置換する
{INPUT_NAME}	入力データファイル名（※拡張子を除く）	INPUT_FILE=… で指定されている入力データファイル名で置換する
{※現在日時書式}	現在日時を示す書式	<p>現在日時を以下の書式文字と見なして置換する</p> <p>“gg”=年号 “y”=年(0~99) “yy”=年(00~99) “yyyy”=年(4桁) “M”=月(1~12) “MM”=月(01~12) “d”=日(1~31) “dd”=日(01~31) “H”=時(0~23) “HH”=時(00~23) “h”=時(1~12) “hh”=時(01~12) ※~24=24時間 ~12=12時間 “m”=分(0~59) “mm”=分(00~59) “s”=秒(0~59) “ss”=秒(00~59) “f”=ミリ秒(0~999) “fff”=(000~999)</p> <p>例) “{yyyy-MM-dd}_{HHmmss}” → “2024-11-18_092423”</p>

2.2 定義サンプル

以下に「監視定義ファイル」のサンプルイメージを示します。

```
#Sample_A.plpの起動定義
<A*.csv>
MOVE_FOLDER=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥入力ファイル
PLP_FILE=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥Sample_A.plp
PDF_FILE=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥PDF¥{yyyyMMdd}¥{INPUT_NAME}.pdf

#Sample_B.plpの起動定義
<B*.csv|CheckTime=5|CheckLimitTime=180|Order=Date|Sort=Desc>
MOVE_FOLDER=C:¥TGI¥Project¥Sample_B¥入力ファイル¥{yyyyMMdd}
PLP_FILE=C:¥TGI¥Project¥Sample_B¥Sample_B.plp
PDF_FILE=C:¥TGI¥PdfFiles¥{PLP_NAME}¥{yyyyMMdd}_{HHMMss}.pdf

#Sample_C.plpの起動定義-1
<C*.txt|Comment=条件判定(1)の定義|Condition Separator:"¥",Encode:utf-16,Column:1,Line:1,Value:"A001",¥AND$,Column:2,Line:1,Value:"帳票-A">
MOVE_FOLDER=C:¥TGI¥Project¥Sample_C¥入力ファイル
PLP_FILE=C:¥TGI¥Project¥Sample_C¥Sample_C.plp
PDF_FILE=C:¥TGI¥Project¥Sample_C¥PDF¥Sample_C_1.pdf|Warning=Use

#Sample_C.plpの起動定義-2
<C*.txt|Comment=条件判定(2)の定義|Condition Separator:"¥",Encode:utf-16,Column:1,Line:1,Value:"B001">
MOVE_FOLDER=C:¥TGI¥Project¥Sample_C¥入力ファイル
PLP_FILE=C:¥TGI¥Project¥Sample_C¥Sample_C.plp
PDF_FILE=C:¥TGI¥Project¥Sample_C¥PDF¥Sample_C_2.pdf|Warning=Use

#上記何れにも該当しないファイルの起動定義
<*>
MOVE_FOLDER=C:¥TGI¥Project¥Sample_Default¥入力ファイル
PLP_FILE=C:¥TGI¥Project¥Sample_Default¥Sample_Default.plp
PDF_FILE=C:¥TGI¥PdfFiles¥{PLP_NAME}¥{INPUT_NAME}.pdf|Warning=Use|Error=Use
```

3. 操作方法

本製品の起動方法、画面表示およびログ出力内容について説明します。

3.1 プリントマネージャー設定

本製品ではVPAS製品群の「プリントマネージャー」との動作連携を行うことができます。プリントマネージャーでPDF出力完了通知の設定を行うことにより、PDFファイル出力結果の詳細情報（正常/異常、出力ページ数）を取得することが出来ます。

●設定操作

プリントマネージャ[C:\TGI\VP Authoring Studio 2.0\TgiPrintManager.exe]を起動して「サーバー」メニューの「動作設定」を選択します。
表示される「リスナー設定」画面で赤枠部分を以下と同じに設定してください。

PDF出力完了時に出力される通知情報を設定します。

ファイル名に<PDF_NAME>の埋め込み書式を指定することで出力されるPDFファイル単位に作成が出来ます。

- PDF出力完了ファイル
PDFファイルの出力結果[正常/異常,出力ページ数]が書き込まれるファイルです。
拡張子は".\$res\$"固定です。
- 完了通知ファイル
PDFの出力が完了した時点で作成される検出用ファイルです。
このファイルはサイズ0バイトのファイルになります。
拡張子は".\$trg\$"固定です。

本製品では「完了通知ファイル」の存在をチェックしてPDF出力完了を検出します。

※これらのファイルは本製品で参照された後は自動的に削除されます。

※上記設定を行わない場合の動作について

PDF出力結果情報が参照できなくなりますのでPDF出力の正常/異常の判定は行いません。PDF出力完了の検出方法はPDFファイルの末尾が“%%EOF”になるまで無限に待ち続ける動作となります。PDF出力中のエラー確認は「プリントマネージャー」の画面にて行う必要があります。またPDF出力完了の検出待ちをキャンセルするには本製品を[Ctrl+C]で強制終了する対応が必要になります。

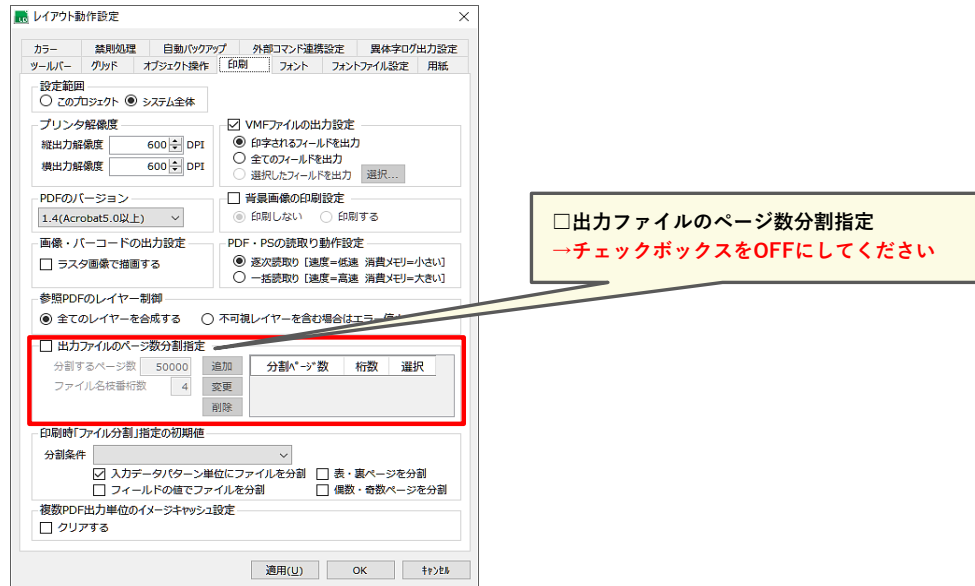
3. 2 PLPプロジェクト設定内容の確認

本製品での動作には、PLPプロジェクトの設定内容に一部制限があります。以下のプロジェクト設定を確認してください。

●PDFファイルの枝番分割指定

出力されるPDFファイルを枝番で分割する設定は行わないでください。本製品の既定動作では単一のPDFファイル出力のみサポートしています。
※複数PDFファイルの出力管理が必要な場合は、プリントマネージャー等の設定変更が必要となりますのでサポートセンターまでお問合せください。

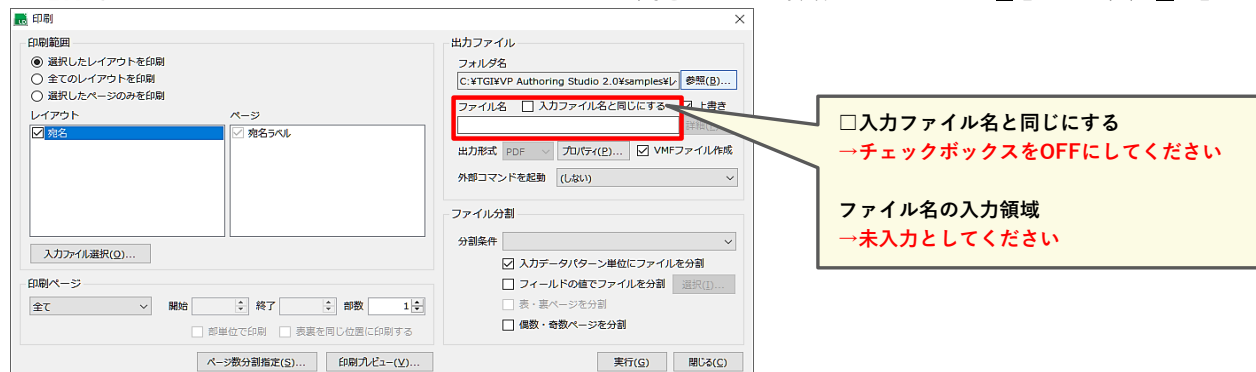
- **確認方法**：レイアウトデザイナーでPLPプロジェクトを開きメニュー操作で「環境設定(S)」→「レイアウト動作設定(L)...」→「印刷」タブを開きます



●PDFファイルの枝番分割指定

印刷時の出力ファイル名は指定を行わないでください。「PLP起動コマンド用XMLファイル」から参照された出力ファイル名が自動的に設定されます。

- **確認方法**：レイアウトデザイナーでPLPプロジェクトを開きメニュー操作で「ファイル(F)」→「印刷(P)...」画面を開きます



3.3 起動および終了方法

本製品の実行コマンドは「C:¥TGI¥VP Authoring Studio 2.0¥TgiPlpAutoLauncher.exe」です。

コマンドのみ実行すると以下の起動パラメータ説明画面が表示されます。

```

コマンドプロンプト
C:¥TGI¥VP Authoring Studio 2.0>TgiPlpAutoLauncher.exe
- VP Authoring Studio II - [TgiPlpAutoLauncher]PLPプロジェクト起動ランチャー(Ver1.0) -
■起動方法
TgiPlpAutoLauncher [/mpr] [/log] [/mon] [-int ZZ9] [-lst xxxx] XXXX
○引数説明
/mpr TgiPlpAutoLauncherプロセス間での並列動作指定
※未指定の場合は並列動作を行わない
/log ログファイル出力指定
※未指定の場合はログ出力しない。ログファイルは「TgiPlpAutoLauncher.log」で作成
/mon ログ画面表示指定
※未指定の場合は画面へのログは出力しない
-int フォルダから指定ファイルを検索して監視する秒周期(1-999秒)
※未指定の場合は5秒
-lst 監視定義ファイルファイル名
※未指定の場合は「WatchFolderConfig.lst」
XXXX ファイルを監視するフォルダ名 ※必須指定
C:¥TGI¥VP Authoring Studio 2.0>

```

※本製品動作時の留意事項について

本製品では監視定義ファイルに沿って「レイアウトデザイナー」を自動起動して「プリントマネージャー」へプロジェクト情報を送出します。この送出処理の処理時間は数秒程度ですが既に別のプロジェクトを「レイアウトデザイナー」で開いている状態だと重複起動エラーが発生してPLP起動はキャンセルされます。

この場合はPLP起動コマンドの実行時に以下のメッセージが表示されます。

レイアウトデザイナーは複数起動は出来ません。他方を終了して再実行してください

このエラーが発生した場合は他方のレイアウトデザイナーを閉じてください。但し、このエラーが発生しても監視動作は継続していますので次の検出時に処理を行います。

◆「レイアウトデザイナー」はライセンス管理上で複数の起動は出来ない仕様となっています。

●起動方法：TgiPlpAutoLauncher.exeの実行に排他をかけて2つのフォルダを同時に監視する指定する場合

```

コマンドプロンプト - TgiPlpAutoLauncher C:¥TGI¥Project¥監視対象フォルダ_1
C:¥TGI¥VP Authoring Studio 2.0>TgiPlpAutoLauncher C:¥TGI¥Project¥監視対象フォルダ_1
- VP Authoring Studio II - [TgiPlpAutoLauncher]PLPプロジェクト起動ランチャー(Ver1.0) -

```

```

コマンドプロンプト - TgiPlpAutoLauncher C:¥TGI¥Project¥監視対象フォルダ_2
C:¥TGI¥VP Authoring Studio 2.0>TgiPlpAutoLauncher C:¥TGI¥Project¥監視対象フォルダ_2
- VP Authoring Studio II - [TgiPlpAutoLauncher]PLPプロジェクト起動ランチャー(Ver1.0) -

```

●終了方法：コンソール画面をアクティブにして [Ctrl+C] を押下してください。監視動作を強制終了します。

```

C:¥TGI¥VP Authoring Studio 2.0¥TgiPlpAutoLauncher.exe
- VP Authoring Studio II - [TgiPlpAutoLauncher]PLPプロジェクト起動ランチャー(Ver1.0) -
[2024/11/19 10:29:29] PLPプロジェクト起動ランチャーを強制終了しました

```

タスクバーをクリックして画面をアクティブ

3. 4 画面表示およびログ出力

コマンド実行時に /log /monオプションを指定することで実行状況をログファイルおよび画面へ表示することができます。
ログファイルと画面へ表示される内容は同じです。

●ログファイルおよび画面出力内容の実行状況イメージ

```

[2024/11/19 21:09:19] ▼ 開始 ▼
<A*.csv>
MOVE_FOLDER=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥入力ファイル
PLP_FILE=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥Sample_A.plp
PDF_FILE=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥PDF¥{yyyyMMdd}¥{INPUT_NAME}.pdf
[2024/11/19 21:09:19] 検出ファイル数=3
[2024/11/19 21:09:19] 検出ファイル ( 1 ) 名前=C:¥TGI¥Project¥監視対象フォルダ_1¥A_001.csv
[2024/11/19 21:09:19] 検出ファイルを複写 名前=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥入力ファイル¥A_001.csv
[2024/11/19 21:09:19] PLP起動パラメータファイル作成 ↓ 名前=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥Sample_A.44520.prm
xml=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥Sample_A.xml
data=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥入力ファイル¥A_001.csv
pdf=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥PDF¥20241119¥A_001.pdf
trg=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥PDF¥20241119¥A_001.$trg$
plp=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥Sample_A.plp
[2024/11/19 21:09:19] PLP起動コマンド 実行=TgiLayoutDesignerExec /lock -conf C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥Sample_A.44520.prm /del
[2024/11/19 21:09:26] PLP起動コマンド 終了=返値 [ 0 ]
[2024/11/19 21:09:26] 検出ファイルを削除 名前=C:¥TGI¥Project¥監視対象フォルダ_1¥A_001.csv
[2024/11/19 21:09:26] ● PDF出力結果=正常 [ 警告件数 =0 出力件数=30 ]
[2024/11/19 21:09:26] 検出ファイル ( 2 ) 名前=C:¥TGI¥Project¥監視対象フォルダ_1¥A_002.csv
[2024/11/19 21:09:26] 検出ファイルを複写 名前=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥入力ファイル¥A_002.csv
[2024/11/19 21:09:26] PLP起動パラメータファイル作成 ↓ 名前=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥Sample_A.44520.prm
xml=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥Sample_A.xml
data=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥入力ファイル¥A_002.csv
pdf=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥PDF¥20241119¥A_002.pdf
trg=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥PDF¥20241119¥A_002.$trg$
plp=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥Sample_A.plp
[2024/11/19 21:09:26] PLP起動コマンド 実行=TgiLayoutDesignerExec /lock -conf C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥Sample_A.44520.prm /del
[2024/11/19 21:09:32] PLP起動コマンド 終了=返値 [ 0 ]
[2024/11/19 21:09:32] 検出ファイルを削除 名前=C:¥TGI¥Project¥監視対象フォルダ_1¥A_002.csv
[2024/11/19 21:09:32] ● PDF出力結果=正常 [ 警告件数 =0 出力件数=50 ]
[2024/11/19 21:09:32] 検出ファイル ( 3 ) 名前=C:¥TGI¥Project¥監視対象フォルダ_1¥A_888.csv
[2024/11/19 21:09:32] 検出ファイルを複写 名前=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥入力ファイル¥A_888.csv
[2024/11/19 21:09:32] PLP起動パラメータファイル作成 ↓ 名前=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥Sample_A.44520.prm
xml=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥Sample_A.xml
data=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥入力ファイル¥A_888.csv
pdf=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥PDF¥20241119¥A_888.pdf
trg=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥PDF¥20241119¥A_888.$trg$
plp=C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥Sample_A.plp
[2024/11/19 21:09:32] PLP起動コマンド 実行=TgiLayoutDesignerExec /lock -conf C:¥TGI¥Project¥Sample_A¥Sample_A.44520.prm /del
[2024/11/19 21:09:56] PLP起動コマンド 終了=返値 [ 0 ]
[2024/11/19 21:09:56] 検出ファイルを削除 名前=C:¥TGI¥Project¥監視対象フォルダ_1¥A_888.csv
[2024/11/19 21:09:56] ● PDF出力結果=正常 [ 警告件数 =0 出力件数=11480 ]
[2024/11/19 21:09:56] ▲ 終了 ▲
[2024/11/19 21:10:01] ▼ 開始 ▼
<B*.csv|CheckTime=5|CheckLimitTime=180|Order=Date|Sort=Desc>
MOVE_FOLDER=C:¥TGI¥Project¥Sample_B¥入力ファイル¥{yyyyMMdd}
PLP_FILE=C:¥TGI¥Project¥Sample_B¥Sample_B.plp
PDF_FILE=C:¥TGI¥Project¥Files¥{PLP_NAME}¥{yyyyMMdd}_ {HHMMss}.pdf

```

「A*.csv」の該当ファイル検出
検出された監視定義ファイル内容
検出されたファイル数 = 3
1ファイル目 (A_001.csv) の処理
PLPの起動パラメータファイルを生成
PLPを起動
正常の場合は監視フォルダから検出ファイル削除
PDF作成結果を出力
2ファイル目 (A_002.csv) の処理
PLPの起動パラメータファイルを生成
PLPを起動
正常の場合は監視フォルダから検出ファイル削除
PDF作成結果を出力
3ファイル目 (A_888.csv) の処理
PLPの起動パラメータファイルを生成
PLPを起動
正常の場合は監視フォルダから検出ファイル削除
PDF作成結果を出力
「B_001.csv」の処理

```
[2024/11/19 21:10:01] 検出ファイル数=1
[2024/11/19 21:10:01] 検出ファイル ( 1 ) 名前=C:\TGI\Project\監視対象フォルダ_1\B_001.csv
[2024/11/19 21:10:01] 検出ファイルを複写 名前=C:\TGI\Project\Sample_B\入力ファイル\20241119\B_001.csv
[2024/11/19 21:10:01] PLP起動パラメータファイル作成 ↓ 名前=C:\TGI\Project\Sample_B\Sample_B.44520.prm
xml=C:\TGI\Project\Sample_B\Sample_B.xml
data=C:\TGI\Project\Sample_B\入力ファイル\20241119\B_001.csv
pdf=C:\TGI\PDFFiles\Sample_B\20241119_211101.pdf
trg=C:\TGI\PDFFiles\Sample_B\20241119_211101.$trg$
plp=C:\TGI\Project\Sample_B\Sample_B.plp
[2024/11/19 21:10:01] PLP起動コマンド 実行=TgiLayoutDesignerExec /lock -conf C:\TGI\Project\Sample_B\Sample_B.44520.prm /del
[2024/11/19 21:10:07] PLP起動コマンド 終了=返値 [ 0 ]
[2024/11/19 21:10:07] 検出ファイルを削除 名前=C:\TGI\Project\監視対象フォルダ_1\B_001.csv
```

```
[2024/11/19 21:10:07] ● PDF出力結果=正常 [ 警告件数 =0 出力件数=500 ]
```

```
[2024/11/19 21:10:07] ▲ 終了 ▲
```

```
[2024/11/19 21:10:13] ▼ 開始 ▼
```

```
<C*.txt|Comment=条件判定(1)の定義|Condition Separator:"\t",Encode=utf-16,Column:1,Line:1,Value:"A001",\SAND$,Column:2,Line:1,Value:"帳票">
MOVE_FOLDER=C:\TGI\Project\Sample_C\入力ファイル
PLP_FILE=C:\TGI\Project\Sample_C\Sample_C.plp
PDF_FILE=C:\TGI\Project\Sample_C\PDF\Sample_C_1.pdf|Warning=Use
```

```
[2024/11/19 21:10:13] 検出ファイル数=1
[2024/11/19 21:10:13] 検出ファイル ( 1 ) 名前=C:\TGI\Project\監視対象フォルダ_1\C_001_A.txt
[2024/11/19 21:10:13] 検出ファイルを複写 名前=C:\TGI\Project\Sample_C\入力ファイル\C_001_A.txt
[2024/11/19 21:10:13] PLP起動パラメータファイル作成 ↓ 名前=C:\TGI\Project\Sample_C\Sample_C.44520.prm
xml=C:\TGI\Project\Sample_C\Sample_C.xml
data=C:\TGI\Project\Sample_C\入力ファイル\C_001_A.txt
pdf=C:\TGI\Project\Sample_C\PDF\Sample_C_1.pdf
trg=C:\TGI\Project\Sample_C\PDF\Sample_C_1.$trg$
plp=C:\TGI\Project\Sample_C\Sample_C.plp
[2024/11/19 21:10:13] PLP起動コマンド 実行=TgiLayoutDesignerExec /lock -conf C:\TGI\Project\Sample_C\Sample_C.44520.prm /del
[2024/11/19 21:10:19] PLP起動コマンド 終了=返値 [ 0 ]
[2024/11/19 21:10:19] 検出ファイルを削除 名前=C:\TGI\Project\監視対象フォルダ_1\C_001_A.txt
```

```
[2024/11/19 21:10:19] ● PDF出力結果=正常 [ 警告件数 =0 出力件数=10 ]
```

```
[2024/11/19 21:10:19] ▲ 終了 ▲
```

```
[2024/11/19 21:10:22] ▼ 開始 ▼
```

```
<C*.txt|Comment=条件判定(2)の定義|Condition Separator:"\t",Encode=utf-16,Column:1,Line:1,Value:"B001">
MOVE_FOLDER=C:\TGI\Project\Sample_C\入力ファイル
PLP_FILE=C:\TGI\Project\Sample_C\Sample_C.plp
PDF_FILE=C:\TGI\Project\Sample_C\PDF\Sample_C_2.pdf|Warning=Use
```

```
[2024/11/19 21:10:22] 検出ファイル数=1
[2024/11/19 21:10:22] 検出ファイル ( 1 ) 名前=C:\TGI\Project\監視対象フォルダ_1\C_001_B.txt
[2024/11/19 21:10:22] 検出ファイルを複写 名前=C:\TGI\Project\Sample_C\入力ファイル\C_001_B.txt
[2024/11/19 21:10:22] PLP起動パラメータファイル作成 ↓ 名前=C:\TGI\Project\Sample_C\Sample_C.44520.prm
xml=C:\TGI\Project\Sample_C\Sample_C.xml
data=C:\TGI\Project\Sample_C\入力ファイル\C_001_B.txt
pdf=C:\TGI\Project\Sample_C\PDF\Sample_C_2.pdf
trg=C:\TGI\Project\Sample_C\PDF\Sample_C_2.$trg$
plp=C:\TGI\Project\Sample_C\Sample_C.plp
[2024/11/19 21:10:22] PLP起動コマンド 実行=TgiLayoutDesignerExec /lock -conf C:\TGI\Project\Sample_C\Sample_C.44520.prm /del
[2024/11/19 21:10:27] PLP起動コマンド 終了=返値 [ 0 ]
[2024/11/19 21:10:27] 検出ファイルを削除 名前=C:\TGI\Project\監視対象フォルダ_1\C_001_B.txt
```

```
[2024/11/19 21:10:27] ● PDF出力結果=正常 [ 警告件数 =0 出力件数=25 ]
```

```
[2024/11/19 21:10:28] ▲ 終了 ▲
```

```
[2024/11/19 21:10:37] ▼ 開始 ▼
<*>
MOVE_FOLDER=C:\TGI\Project\Sample_Default\入力ファイル
PLP_FILE=C:\TGI\Project\Sample_Default\Sample_Default.plp
PDF_FILE=C:\TGI\PdfFiles\${PLP_NAME}\${INPUT_NAME}.pdf|Warning=Use|Error=Use

[2024/11/19 21:10:37] 検出ファイル数=1

[2024/11/19 21:10:37] 検出ファイル ( 1 ) 名前=C:\TGI\Project\監視対象フォルダ_1\TEST_999.csv
[2024/11/19 21:10:37] 検出ファイルを複写 名前=C:\TGI\Project\Sample_Default\入力ファイル\TEST_999.csv
[2024/11/19 21:10:37] PLP起動パラメータファイル作成 ↓ 名前=C:\TGI\Project\Sample_Default\Sample_Default.44520.prm
xml=C:\TGI\Project\Sample_Default\Sample_Default.xml
data=C:\TGI\Project\Sample_Default\入力ファイル\TEST_999.csv
pdf=C:\TGI\PdfFiles\Sample_Default\TEST_999.pdf
trg=C:\TGI\PdfFiles\Sample_Default\TEST_999.$trg$
plp=C:\TGI\Project\Sample_Default\Sample_Default.plp

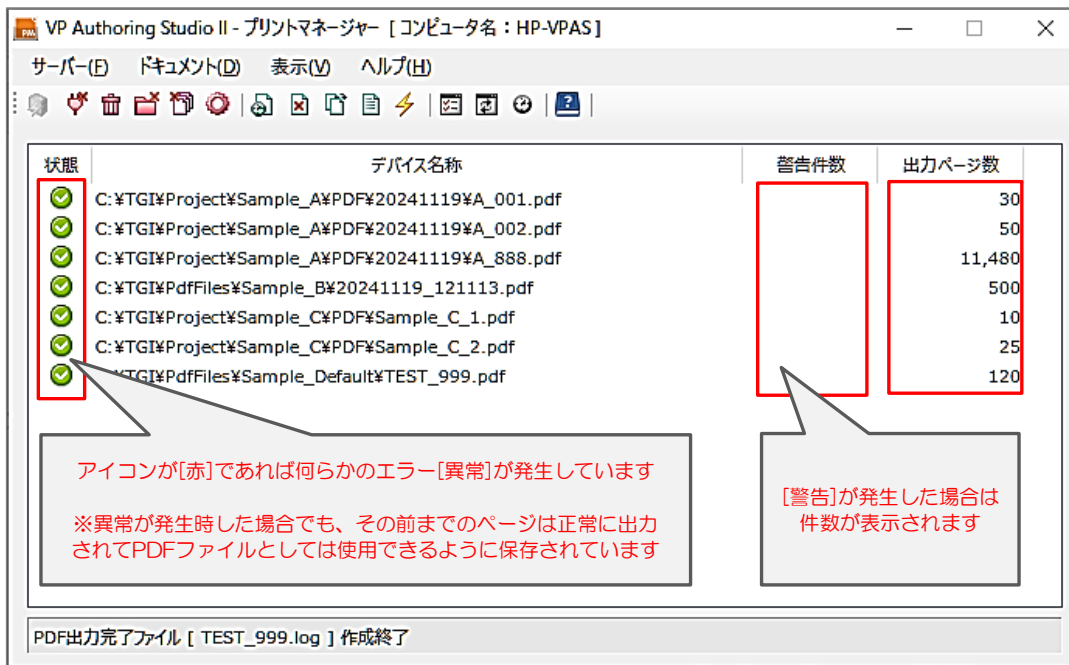
[2024/11/19 21:10:37] PLP起動コマンド 実行=TgiLayoutDesignerExec /lock -conf C:\TGI\Project\Sample_Default\Sample_Default.44520.prm /del
[2024/11/19 21:10:42] PLP起動コマンド 終了=返値 [ 0 ]
[2024/11/19 21:10:42] 検出ファイルを削除 名前=C:\TGI\Project\監視対象フォルダ_1\TEST_999.csv

[2024/11/19 21:10:42] ● PDF出力結果=正常 [ 警告件数 =0 出力件数=120 ]

[2024/11/19 21:10:42] ▲ 終了 ▲
```

→ ファイル検索条件に該当しないものはここで処理

●上記の実行結果では「プリントマネージャー」のモニタ表示は以下のようになります。



※「警告」「異常」が発生した場合のプリントマネージャー出力終了時のBeep音出力について
使用するマシンのサウンド機能が有効になっている場合、以下のBeep音が出力されます。

- 「警告」が発生した場合=ポツ・・・ポツ・・・ポツ・・・ポツ・・・ポツ・・・ポツ・・・ポツ・・・ポツ・・・ (約8秒間)
- 「異常」が発生した場合=ピーー・・・ピーー・・・ピーー・・・ピーー・・・ピーー・・・ピーー・・・ピーー・・・ピーー・・・ (約8秒間)

4. プロセス終了値および表示メッセージ説明

監視コマンドが終了する場合には、以下の返値が呼び出し側プロセスへ返されて画面・ログへメッセージが表示され監視動作は中止します。但し、「(処理継続)」と記載されているエラーはメッセージのみ出力して監視処理は継続します。

終了値	表示メッセージ	対応方法
0	PLPプロジェクト起動ランチャーを強制終了しました	監視コマンドを[Ctrl+C]で終了させた場合に表示されます
-100	ERROR>VPASがインストールされてないため使用できません	VPASがインストールされたマシンで実行します
-101	ERROR>コマンドの起動パラメータ処理に失敗しました 詳細=エラーメッセージ	詳細エラーメッセージをもとに起動パラメータを確認します
-102	ERROR>監視定義ファイルの解析処理に失敗しました 詳細=エラーメッセージ	詳細エラーメッセージをもとに監視定義ファイルを確認します
-103	ERROR>監視動作で致命的なエラーが発生しました 詳細=エラーメッセージ	※サポートセンターにお問合せください
(処理継続)	[警告]レイアウトデザイナーは複数起動は出来ません。他方を終了して再実行してください	既に起動されているレイアウトデザイナーを終了させます
(処理継続)	[警告]ファイルサイズの増分検出で最大時間[ZZ9]秒に達しました 名前=入力データファイル名	入力データファイルが開かれていないかなどを確認します
(処理継続)	[警告]PLP起動コマンド用XMLファイルが見つかりません 名前=PLP起動コマンド用XMLファイル名	PLP起動コマンド用XMLファイルが存在するかを確認します
(処理継続)	[警告]PLPプロジェクトファイルが見つかりません 名前=PLPプロジェクトファイル名	PLPプロジェクトファイルが存在するかを確認します
(処理継続)	[警告]PDF出力完了ファイルが不正です。内容を確認してください 名前=PDF出力完了ファイル名	書き込まれているPDFファイル名が一致するかを確認します
(処理継続)	[警告]TgiLayoutDesignerExecでエラーが発生しました。返値を確認してください	以下●「TgiLayoutDesignerExecでの返値」を確認します

● 「TgiLayoutDesignerExecでの返値」

本製品ではPLP自動起動に「TgiLayoutDesignerExec」コマンドを呼び出します。この返値は画面・ログファイルへ「PLP起動コマンド 終了=返値 [-112]」等で出力されます。

返値	エラー状況	対応方法
0	正常終了	画面・ログファイルへ「PLP起動コマンド 終了=返値 [0]」で出力
-100	VPASがインストールされてないため使用できません	※このエラーは本製品では発生しません
-110	プロセスの排他起動に失敗しました	※サポートセンターにお問合せください
-111	PLP起動コマンド用XMLファイルが見つかりません	※このエラーは本製品では発生しません
-112	PLPプロジェクトファイルが見つかりません	※このエラーは本製品では発生しません
-113	コマンドライン解析でエラーが発生しました	※このエラーは本製品では発生しません
-114	XMLファイル更新でエラーが発生しました	※サポートセンターにお問合せください
-115	レイアウトデザイナー起動でエラーが発生しました	※サポートセンターにお問合せください
(その他)	「レイアウトデザイナー」から返されるエラーコードが本製品のログに表示されます	以下●「レイアウトデザイナーでの返値」を確認します

● 「レイアウトデザイナーでの返値」

本製品では「TgiLayoutDesignerExec」コマンドからレイアウトデザイナーを自動起動します。この返値は画面・ログファイルへ「PLP起動コマンド 終了=返値 [-10]」等で出力されます。

返値	エラー状況	対応方法
-1	指定されたPLPプロジェクトファイルが存在しない	※このエラーは本製品では発生しません
-2	レイアウトデザイナー起動のコマンド文字列が不正である	※このエラーは本製品では発生しません
-3	PLP起動コマンド用XML定義ファイルが存在しない	※このエラーは本製品では発生しません
-4	何れかの属性値の指定で未定義の選択肢が指定されている、または致命的な処理エラーが発生した	※サポートセンターにお問合せください
-10	PLP起動コマンド用XML定義エラー：<selection><layout>のname属性値が不正	属性値が[レイアウト]の[名前]であるかを確認します
-11	PLP起動コマンド用XML定義エラー：<selection><layout><page>のname属性値が不正	属性値が[ページ]の[名前]であるかを確認します
-12	PLP起動コマンド用XML定義エラー：<options><split>のpage属性値が不正	属性値が[ページ]の[名前]であるかを確認します
-13	PLP起動コマンド用XML定義エラー：<options><split>のgroup属性値が不正	属性値が[変換フィールド]の[表示名]であるかを確認します
-14	PLP起動コマンド用XML定義エラー：<options><split>のfield属性値が不正	属性値が[変換フィールド]の項目の[名称]であるかを確認します
-15	PLP起動コマンド用XML定義エラー：<selection><layout><out1-pattern>のname属性値が不正	属性値が[関連付け]の[名前]であるかを確認します
-16	PLP起動コマンド用XML定義エラー：<selection><layout><out1-pattern><out2-pattern>のname属性値が不正	属性値が[関連付け]の[表示名]であるかを確認します
-17	PLP起動コマンド用XML定義エラー：<input><target>のname属性値が不正	属性値が[ファイル定義]の[表示名]であるかを確認します
-99	レイアウトデザイナーは複数起動は出来ません。他方を終了して再実行してください	本製品ではエラー停止せず処理を継続します

※PLP起動コマンド用XML定義エラーが発生した場合は、別紙「PLP起動コマンド用XMLファイル仕様」を確認してください。